

# 角田獅子舞

# 「かがり火舞」

## 27年の歴史に幕を下ろす



栗山の郷土芸能「角田獅子舞」(泉晴夫保存会代表)による「かがり火舞」が、元日午前0時すぎから角田神社で行われました。平成4年から続けられてきた伝統行事ですが、保存会の会員数の減少などから27回目となる今回を最後に見納めとなりました。

### 地元有志の熱意で

角田獅子舞は、古くから四国讃岐地方に伝わる二人立ちの讃岐獅子で、昭和28年に地元有志の熱意で一巴村(現深川市)から導入。同年の角田神社秋祭りですべて角田神社に奉納されました。

以来、角田獅子舞は一巴村から指導者を招くなど内容を充実させるとともに、近郊の祭典や各種イベントにも出演し、角田の郷土芸能として保存伝承されてきました。



### 地域ぐるみで保存伝承

昭和38年、役場庁舎の栗山市街移転により、過疎化の流れが急速に進み、若者の転出による後継者不足、加えて指導者の高齢化などにより将来への保存伝承が大きな課題となっていました。早期に対策を立てる必要があっ

たことから、昭和48年5月に角田獅子舞保存会を設立。後継者育成や保存伝承などの具体的方策の検討が進められました。

その結果、今後の後継者を小学校高学年として保存会がその指導に当たることとし、角田小学校や町内会への協力要請、子ども用獅子頭や道具一式の購入、資金の調達方法など次々と決められ着実に実行されていきました。

生による角田獅子舞をその年の秋祭りに初めて披露。新調された獅子頭、かわいらしい中にもきびきびとした子どもたちによる獅子舞は故郷の温もり、心の安らぎを感じさせてくれると大好評となりました。

たくさんイベントにも出演してきました。

### 大切な郷土芸能の復活を願って

27回目、最後となった当日は境内にかがり火が灯され、幻想的な雰囲気の中で中国の諸葛孔明が猛獣を使う難敵を打ち破ったとされる戦いに由来するという口上の後、酒に酔いながら2頭の獅子と狸々が繰り広げるユーモアあふれる舞いを披露。200人を超える初詣客から大きな拍手が送られていました。木古内町から訪れた

村上洋子さんは「初めて来ました、すごく迫力があって楽しむことができました。これで最後になってしまうのは寂しいです」と話していました。

これまで地域の風物詩として行われてきた角田獅子舞「かがり火舞」。今後はさらなる人手不足と高齢化に伴い、郷土芸能をはじめとする町の伝統行事の存続が危惧されます。

今回の記事を契機に、皆さんもこれからの伝統行事のあり方について考えてみませんか。

### 今後は子どもたちへの指導を中心に

角田獅子舞保存会の指導部長である永田英隆さんに、今後のことなどをお聞きました。

#### —かがり火舞の出演者は

狸々1人、獅子役2頭×2人で4人、太鼓、笛、鉦で10人の計15人の出演者が必要です。

#### —会員の状況は

10年前の約40人をピークに現在は15人前後まで落ち込み、年齢も50・60代が中心で体力的にも厳しくなり、出演者確保がさらに困難な状況になりました。

#### —保存会としての今後の活動は

今後はイベントなどの出演はやめ、角田小学校の子どもたちに指導し、角田神社の秋祭りで演舞してもらう保存継承活動に一層力を入れる予定です。まずはここまで続けることができたことに感謝したいです。角田以外の方でも興味のある方であればどなたでも構わないので連絡してほしいと思います。もしも今後、会員数が増えることになればかがり火舞の復活を検討していきたいと思っています。



角田獅子舞保存会  
指導部長 永田 英隆さん(67歳)



## 成人式実行委員会

成人式の開催に向け、新成人の中心となり準備を進めてきた実行委員の皆さん（写真右）。

また、実行委員長（写真下）の佐々木麻由さんには新成人を迎えた今の心境や、これからの目標などを聞きました。

※新成人の写真は32ページの裏表紙にも掲載しています。



成人式実行委員長  
佐々木 麻由さん

— 新成人を迎えて —  
 ここまでの時間は本当に早かったです。たくさんの方にいただいたお祝いの言葉を胸に、これからまた心を新たに、頑張っていこうと思えました。  
 この日、久しぶりに会う友人との会話はとても楽しかったですし、懐かしくなって自然と笑顔になりました。

— 相手のことを考える人 —  
 私自身社会人3年目となりますが、まだまだ周りを見ていなかったり、自分が子どもだなどと思うことがあったり、大人として未熟な部分がたくさんあるので、今よりもっと成長して、仕事でもプライベートでも頼られ、相手の事を想えるような素敵な人になるのが目標です。

— 未成年の方へメッセージ —  
 皆さんには「今」しかできないことがたくさんあると思っています。時間は本当にあつという間に過ぎてしまうので、家族、友達、大切な人と過ごす「今」を大切に、これから待ち受ける困難にも立ち向かい、自分の人生を悔いのないよう楽しんで進んでほしいです。

## 成人式実行委員長へインタビュー



栗山町成人式

## 新成人1222人が笑顔の門出

平成30年の栗山町成人式が1月7日カルチャープラザ「Eki」で行われ、あでやかな晴れ着やスーツに身を包んだ新成人1222人が大人への第一歩を踏み出しました。

式典で椿原紀昭町長は「若い力とチャレンジ精神をもって、何事にも果敢に挑戦し、夢の実現に向かって邁進していただきたい」と新成人を激励。新成人代表の平澤智騎さんと渡邊あみさんは「新成人として目標を持ち、それに向かって前進し、町の発展、日本の発展へと自分たちの若い力を存分に発揮し、幅広い分野で活躍していきます」と力強く宣言しました。

引き続き行われたアトラクションではビデオレターが上映され、学生時代の担任教諭など9人が登場。当時の思い出やお祝いのメッセージが贈られると、新成人たちから大きな歓声が起こりました。

また、サプライズゲストとして今年1年間、本町の応援大使を担うこととなった北海道日本ハムファイターズの宮西尚生選手と浅間大基選手もスクリーンに登場。



新成人に「常に大人としての行動をしてほしい」とエールを送りました。